

旭川市市民参加推進会議

第11期1年目
のまとめ

公募委員の充実に向けて

02

SNS 掲載について

詳細はP3

SNSを上手に活用することで、市民参加のことを知ってもらうきっかけになる！
広げれば広げるほど、参加してみようという気持ちにつながる。

しかし、SNSであることによる数々の懸念もある。誰も傷つくことのないようにルールを決めることが必要。



市民参加推進会議について

今年度のテーマは、
「公募委員の充実に向けて」。

課題としてあがったのが次の3つです。

- ①周知方法
- ②SNS掲載
- ③参加するまでの「あと一歩！」

これらについて、委員の皆さんのアイデアや意見をまとめました。

03

参加するまでの
「あと一歩！」

市民参加のことを認知はしていても、「じゃあ参加しよう」とはならない。
参加するまでには大きなハードルが。
そのハードルを乗り越えるモチベーションをつくることでできれば、市民参加の状況は大きく変わるはず！



01

詳細はP2

市民参加の周知

実際の市民参加の取組をどれだけの人が知っているだろうか。
まだまだ周知が足りていないのでは。



- ・公募チラシ
- ・市ホームページ
- ・市民広報
- ・デジタルサイネージ

周知方法や周知内容の改善！
市ホームページや市民広報へ誘導する媒体も必要。

「あと一歩！」の
ための後押しとは

詳細はP3

- ・市民と市役所職員がつながる
～市役所を身近に感じたら、変わる？➡
- ・口コミ
～経験者の生きた声で興味を持ち始めたら、変わる？➡
- ・体験
～体験して自信がついたら、変わる？➡

旭川市市民参加推進会議 まとめ

・市民参加の周知

03

市民広報

こんな内容なら、興味を持つ！

- ①報酬・謝礼を明記する。
- ②表現は簡単にわかりやすく。

(例) **雪対策審議会の内容**

「市の雪対策の推進に関する基本的な計画や
その他重要な事項について調査・審議」

→「**市の除雪について調査・審議**」

- ③会議の概要や公募内容が見られるように
QRコードを入れる。

つまり！掲載項目の見直しが必要。

こんな魅せ方も！！

各会議を密着、クローズアップし紹介する。



01

公募チラシ

こんなチラシなら、目を引く！

- ①カラー印刷で、
色彩を意識する。
- ②内容に参加者の声を入れる。
- ③チラシの配置場所を工夫する。
- ④会議の概要が見られるように
QRコードを入れる。

(例) 令和5年度に作成した
市民参加推進会議の公募チラシ



04

デジタルサイネージ

こんなデジタルサイネージなら有効！

- ①時間に制限があるため、スライドを複数に
分け、ショートムービー風に作成してみても。
- ②音声を上手に活用し、しっかり見てもらえる
工夫をする。
- ③デジタルサイネージから市政情報コーナーに
誘導するしくみを作る。
- ④インパクトのある内容にする。
- ⑤QRコードを入れ、制限時間を有効に使う。

02

市ホームページ

こんなHPなら、見ようと思う！

- ①公募チラシの画像を全面
に出して、視覚に訴える。
- ②SNSからホームページ
に移動できるようにする。

①はすでに実施済
是非、ご覧ください



05

その他の周知方法

【メディアを活用！】

旭川のテレビ情報番組やラジオ放送
で情報発信する。

【足を止めて、見てもらう工夫が必要！】

- ・バスなど公共交通機関での周知
- ・ポケットティッシュに広告を入れて配布

【研修会やイベントに市が入り込む！】

市からのお知らせ時間を設けたり、資料
に公募チラシを入れてもらう。

【公募チラシコンテストの開催！】

さまざまなデザインのチラシをみんなで
評価。各会議について市民が知るきっかけ
にもなる。

旭川市市民参加推進会議 まとめ

- ・ SNS 掲載について
- ・ 参加するまでの
「あと一步」

01

SNS 掲載について



【SNS 掲載のメリット】

- ・ 会議の雰囲気が伝わるため、参加してみたいと思う。
- ・ タイムリーに発信できる。
- ・ 視覚に直接訴えることができる。
- ・ いつでも手軽に確認できる。

しかし、使い方による不安も大きい。
ルールを決めなければならない。



SNS 掲載のルール

【ルールづくりのための整理】

- ・ 正確な内容を伝えること。
- ・ 審議に関わる内容は、会議外で発信しないこと。
- ・ 誰も傷つかないようにすること。

【★市民参加推進会議内のルール】

女性活躍推進課インスタグラムの掲載内容を転用することによって、SNS 掲載を認める。

02

「あと一步！」の後押し① 市民と市役所職員がつながる

市役所に対するハードルを下げ、情報を共有しやすい環境をつくるのが大切。
市役所が身近になれば、市民も市政に興味を持ち、公募委員への意識も変わる。

【方法】

- ・ すでに市職員とつながりのある人に潤滑油となってもらい、輪を広げていく。
- ・ 市主催のイベントなどでボランティア活動を通じてつながる。
- ・ 大学のゼミ内で話題になるよう、市から大学へ掛け合う。



03

「あと一步！」の後押し② 経験者からの口コミ

参加経験者の達成感や充実感などを身近な人へ口コミする。小さな輪から大きな輪へ「やってみたい」を広げることで、人数のみならず、気持ちのある公募委員が増えることを期待できる。

【方法】

- ・ 経験委員が、会議の雰囲気や成功体験、やりがいを伝える。
- ・ 町内会やサークルなどの小さなコミュニティを上手に活用する。

04

「あと一步！」の後押し③ 体験（模擬審議会の開催）

初回参加のハードルは高いと思われるが、参加することで、わかることもたくさんある。
初回のハードルを低くするため、若い世代から参加できる模擬審議会を開催し、体験してみる。
自信がつくことで、次につながる。

【方法】

- ・ 高校生からの参加が可。
- ・ 友達との参加も可。
- ・ 会議名称は学生が緊張しないようにわかりやすく簡単なもので。